

経営比較分析表（令和2年度決算）

宮城県 柴田町

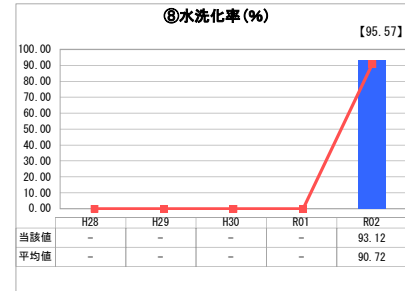
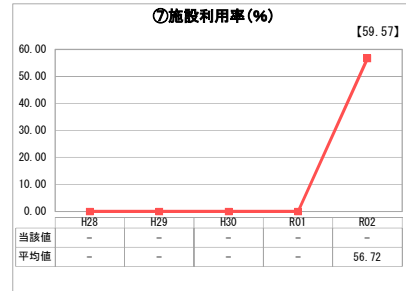
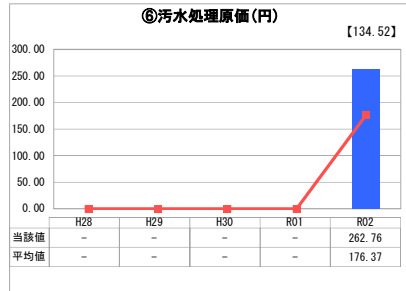
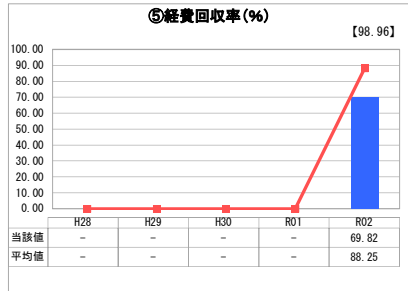
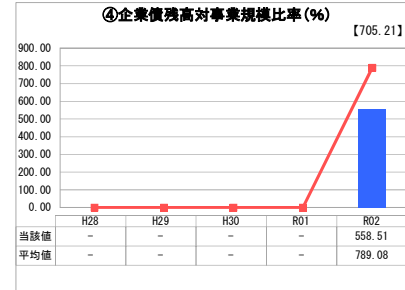
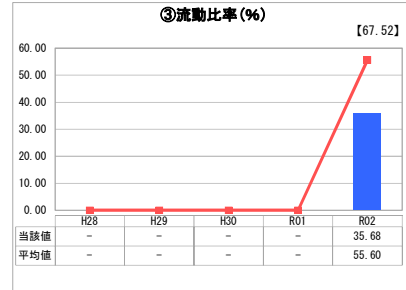
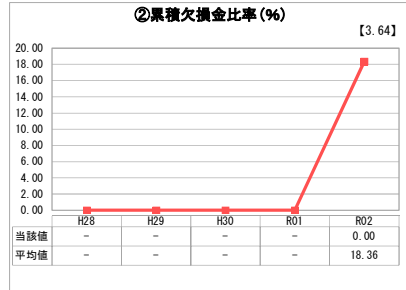
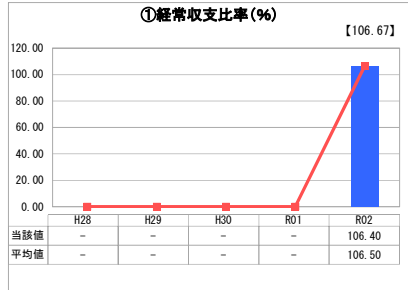
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	67.98	80.08	81.30	3,300

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
37,598	54.03	695.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
29,950	7.52	3,982.71

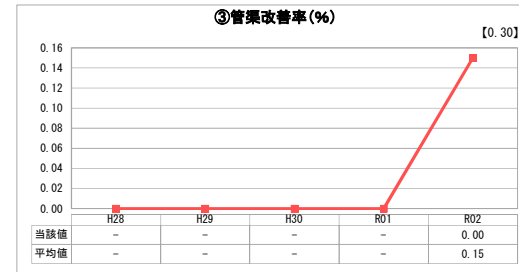
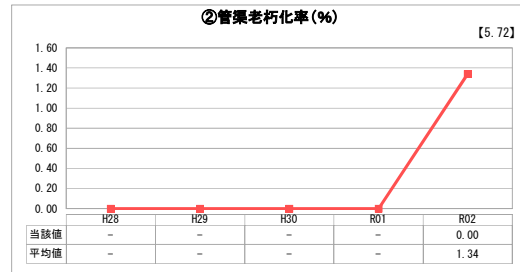
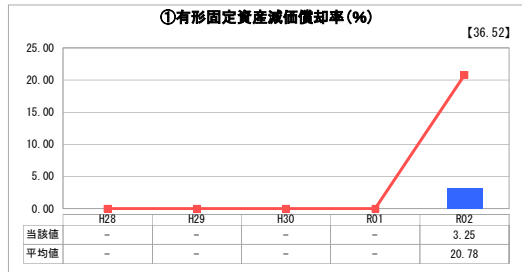
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度の経営については、経常収支比率が106.40%と基準値(100%以上が好ましいとされている)より高いものの、流動比率が35.68%と類似団体、全国平均より低く、経費回収率が69.82%と基準値より低い結果となりました。今後は支払能力を高めるための経営改善や費用削減に努めます。企業債残高対事業規模比率は、類似団体、全国平均と比べて低い数値となりました。引き続き計画的な整備、適切な料金設定が必要となります。汚水処理原価は、類似団体、全国平均と比べると高い数値となっています。今後も有収水量の増加のため、効率的な事業を進めていく必要があります。水洗化率は、類似団体と比較しても高い数値となっています。新規の水洗化戸数は増えているため、更に接続促進に努めます。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体、全国平均と比べると低く、管渠老朽化率や管渠改善率より、耐用年数を超過しておらず、健全といえます。しかし、本町の下水道事業は、昭和50年代から汚水管渠の整備が実施され、既に35年以上経過した老朽管が西船迫地区・槻木地区にあります。特に鉄筋コンクリート管による汚水管整備がなされた西船迫地区の経年劣化などによる管渠の老朽化が著しく、ストックマネジメント計画の下、計画的な更新作業を進めていくこととしています。

全体総括

令和2年度から公営企業会計に移行した初年度の経営比較分析となっています。全体的に、類似団体平均や全国平均に及ばない指標が多く、引き続き効率的な事業を進め、使用料収入の増加につながるよう水洗化の向上を目指します。また、一般会計繰入金に依存しないような事業の執行とともに、使用料の適正な料金設定の見直しおよび費用削減を行っていく必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。